

TAZUNA 通信

企画経営の“攻め”と“守り”を考える

Vol. 06
10月号

情報セキュリティの見直しがはじまっている

セキュリティの環境を取り巻く変化

本通信の8月号「スマートフォン活用のリスク」というタイトルの拙文を読みなおした。スマートフォン活用とセキュリティはバランスが大事で、今は活用が先に進む時、企業としてはできるかぎりの自主努力をと締めくくったが、この2ヶ月でさらに時代は進んだ感がある。本格的なルールづくりとセキュリティ対策の実装が進みつつあるのだ。比較的規模の大きな企業や官公庁・自治体のセキュリティ担当者からは、スマートフォン、ツイッター、フェイスブックの利用に関するルールの策定、具体的なセキュリティ対策のあり方を相談されるケースが増えた。フェイスブックを利用している社員が所属会社を明らかにしたままノンオフィシャルな発言をしてしまうケース、飲食店やホテルのアルバイト従業員が、有名人の来店や、クレーム情報をつぶやいたり報道されているものから、そこまではいかなないもののセキュリティ上危うい利用をしている従業員が発見されたりということが引き金になっている。

見直し論が高まっている

それと軌を一にするように、既存のセキュリティポリシーの見直し論が高まっている。スマートフォン、ツイッター、フェイスブックという、ポリシーを策定した5-6年前には、想定していなかった技術革新、新サービスが世の中に登場してきたので、セキュリティポリシーを見直すのは当然のことである。そもそも、ノートパソコンやモバイルなどの可搬コンピュータの取り扱い、ほとんどの会社がセキュリティポリシーに定めている。そのほとんどが私物ノートパソコンの持ち込み禁止である。携帯電話の持ち込みを禁じる会社は少数である。携帯電話のつもりで同じように持ち込まれていたスマートフォンだが、気づいたら（利用者ははじめから気づいていたかもしれないが）ノートパソコン以上の能力を持っていた、といったところである。ツイッターやフェイスブックについても、会社の機密情報を外部に漏らさないというポリシーが定められており、パート・ア

ルバイトにいたるまで機密保持の誓約書にサインをさせるということが普通に行われているので、会社情報をつぶやくなどやってはいけないとルール化されているのと同様である。以前はHPやブログを書くときでも周囲に与える影響を考えて書く、いわば、背筋を伸ばして発信するという様子が全インターネットユーザーにあったが、つぶやくという発信形式が、何の熟慮もせず発信することを許し、いわば寝転がりながら考えずにいっちゃった、という発信文化を作ってしまった。もともとのルールから言えば、スマートフォンもルール違反、ツイッターでのつぶやきも違反である。しかし、ツイッター違反者からは「えっ、だめだったの」と第一声で返ってきそうである。会社で、固有のスマートフォン取り扱いのルールと、フェイスブック（他SNSも）、ツイッターを明確にして、かつ、そのことを従業員に周知する必要性が高まっているともいえ、セキュリティの研修テキストを現代の事情にあわせてリニューアルしたいという要望も増えている。

見直しの機動力

このタイミングで見直し論が高まっているのは、実はISO 27001などの情報セキュリティマネジメントシステムには「1年に1回はセキュリティポリシーの見直しをすること」が組み込まれている。だが、実態は、「見直しなし」が数年続いている組織も少なくない。見直しは何をしたらいいのですかという情報セキュリティ担当からの相談も多い。

本来は、社内で騒動・事件が起きた、新聞で事件を見た、スマホの普及が本格化したというニュースや事象にあわせて見直しをかけていくような機動力が欲しい。1年に1回の見直しでなく、タイミングよく見直しが必要とされる。そういう組織がセキュリティ上強い。そして、変化への対応力のある会社は、セキュリティだけでなく、事業展開においても優位に立てることは間違いないだろう。

文責：株式会社ブレインワークス
経営サポート事業部 部長 大西信次

信頼できる外注先に任せっぱなしになっていませんか？

増えるアウトソーシング

会社の中で、重要な役割を担っているのは従業員であることには違いないのですが、それ以外に会社では様々なシーンでアウトソーシングを活用しています。特に近年は、製造業や建設業、ソフトウェア開発業などにおける協力会社だけに留まらず、会社の経理業務や社会保険業務、給与計算などの一般の管理業務においてもアウトソーシングをしている会社が増えています。これは、従業員を雇用してそれらの業務を行うよりも確実でかつコスト的に安価になるケースが多いからです。

発注側の責任

信頼できる外注先に仕事を任せるのは大いに結構ですが、ここで注意しなければならないのは、任せっぱなしになってしまい、チェックを怠り、馴れ合いになることです。今回は、外注業務におけるチェックの重要性を考えます。

具体的な例として、会計システムや販売管理システムなどの極めて重要な基幹システムの導入の外注をあげます。まず重要なことは、どこの会社を外注するかを選定することです。ここでソフトウェア会社を選定するためのチェックを行います。外注先であるソフトウェア会社を選定するのに担当者任せではいけません。各社からの提案をうけたり、コンペでのプレゼンを経て外注先を選定するといったプロセスを経ましょう。規模の大きなものになれば会社の社長や役員もそのプレゼンに参加してソフトウェア会社を選定することとなります。

さらに、外注先であるソフトウェア会社を選定～発注後に1度や2度打ち合わせをして「後はよろしく、納期は間に合わせてね。」では絶対に上手くいきません。外注先を上手くコントロールし、きちんとした仕事をしているかをチェックしなければなりません。仕事を請けた外注先がきちんとした仕事をするのは当たり前と考えるのはごくごく普通のことですが、発注する側の指示や仕様が曖昧だったり、チェックのタイミング

で気になったことを流してしまうと、出来上がった成果物が想定と異なってしまふことがあります。また、発注する側が進捗確認を行わずにソフトウェア会社がずるずると納期を遅延してしまうこともあります。これらは外注先にも問題がありますが、発注側のチェック不足ということが一因です。例えば、週次で厳しく進捗を確認するなどといったことが必要です。また、システムが出来上がってから、仕様が異なるという理由で作りなおすということもありますが、この場合も多くは発注側の仕様が曖昧であったり設計書のチェックがしっかり加減なことが原因です。納品後になってあってもないこうでもないといった意見が噴出しますが、時既に遅しです。結局プロジェクト全体が上手くいかず、納期遅れ、品質不良、予算オーバーといったこととなり、会社にとってはマイナスのことばかりです。外注先へのチェックにも設計に対するチェック、納期に対するチェック、品質に対するチェックなど様々ありますが、すべてのチェックを徹底していく必要があります。

信頼できるからこそその「C」

このような事例は、システム業界や建設業、製造業など、様々な業界に当てはまります。しかし発注先が初めての取引先である場合、このような問題が起こることは実は比較的少ないです。なぜなら発注者も相手を知らないため、慎重になるし、請け側の会社も第一印象が大事であり初めての仕事で失敗するわけにはいかないので普段以上の仕事を全力投球でしてきます。ところが、五年、十年と付き合いのある業者が相手であったりすると、「いつものように頼むよ」などといい加減な発注をしてしまいます。いつも発注しているからと、ついついチェックがおろそかになってしまい、やがてとんでもない失敗を引き起こす温床になってしまいます。

慣れてきた頃からこそ、CAPDの「C」が必要です。外注先に対するチェックはプロジェクトの利益にも繋がる重要なことです。外注先をチェックする能力を身につけるのもビジネスパーソンにとっては極めて重要なスキルなのです。

執筆者紹介

株式会社ブレインワークス 経営サポート事業部 コンサルタント

藤原 一博

山形大学大学院工学研究科修了後、大手建設会社を経て、株式会社ブレインワークス入社。

主に企業の業務改善、情報セキュリティポリシーの策定、ISO27001取得、Pマーク取得、セキュリティ監査、内部統制の構築、システム導入コンサルなどに関わる。

現在は独立行政法人製品評価技術基盤機構様にてCIO補佐官を務めている。

IT のスペシャリストが語る！

ブレインワークス発！

IT NEWS

当コーナーは「知って得する中小企業における IT 活用」をテーマに、IT の正しい活用の仕方やお得な情報をお伝えします。

今回はOSやOffice製品のバージョンアップに伴う、システム環境のバージョンアップについてご紹介します。

IT の
いま!!

システム環境のバージョンアップ

昨年10月末に Windows Xp の販売が終了となり、皆様のオフィスにも Windows 7 の端末が増えてきた頃と思われます。(Windows Xp のサポートは2014年4月8日にはすべて打ち切り) また Office 製品も2~3年スパンでバージョンアップされていく環境において、社内システム(基幹系/業務系)の環境もバージョンアップしないと、システムが起動できないことや、挙動がおかしくなることがあります。

これまで何度か同様のバージョンアップに悩まされてきた方も多いと思いますが、今回の Windows Xp から Windows 7 へのバージョンアップも、OSの構成が大きく変わるため、影響力が大きいと言われています。年々厳しくなる経済状況のなか、OSやOffice製品のバージョンアップだけでもコスト増となり、さらにシステムのバージョンアップに掛かるコストも計上していく必要があるため、大変頭を悩ませる問題です。

選択の一つとして、サポートの切れた環境で使い続けることがあります。サポート打ち切りはあくまで、サポートを受けることができなくなるだけで、PCやサーバ等の機器類を使い続けることはできます。今でも Windows 2000 や Windows 98 などの環境を見かけることが多々あります。PCやサーバが故障するまで使い続け、新たに買い変えるという方針をとられる経営者の方も中小企業では多数おられます。しかし情報社会の現在において、サポート切れの機器を使い続けることは大きなリスクを抱えています。サポート期間内において、Windows ではサービスパック(以下SP)と呼ばれる、修正プログラムが自動配信されます。SPの目的は、プログラムの不具合やセキュリティ対策等を施し、利用者に安全に使うことです。このサポートが打ち切られることで、以降に発生する重要な不具合やウィルス対策について対応できなくなります。社内ネットワークから完全に隔離された環境や、ネットワークに接続しないで活用されているPC(スタンドアロン環境)なら問題はありますが、そうでない場合はウィルス感染や情報漏洩に繋がる大きなリスクを抱えることになってしまいます。

他の方法として、Windows 7 にて「Windows Xp モード」を使うことがあげられます。Windows XP モードを使用すれば、Windows XP 用に設計されたプログラムを、Windows 7 Professional、Enterprise、または Ultimate エディションを実行するコンピューター上で実行することができます。(標準機能ではないため、ツールのインストールが必要となります) よってPCは Windows XP を使用していることとなり、システム環境を Windows 7 向けに対応する必要がなくなります。ただし上記 Windows XP のサポート期限問題があるため、あくまで延命措置となります。

長々と説明して参りましたが、結論として「OSやOffice製品のバージョンアップに伴う、システム環境のバージョンアップは必須」ということになります。ただし新製品発表のタイミングで直ぐに手を打つのではなく、猶予期間を有効に活用し、バージョンアップ計画を立てていくことです。

下記の手順を参考に、面倒なシステム環境のバージョンアップを対策していきましょう。

システム環境のバージョンアップ

- 1 OSやOffice製品のバージョンアップ情報をキャッチする
- 2 オーダーメイドで構築したシステム、市販のパッケージ共々、システム環境のバージョンアップ対策が必要かを明確にする
- 3 方針を定め、実施日までの対策を検討する
- 4 スケジュールを定め、周知していく

ポイント

情報収集やバージョンアップの有無確認、対策検討などにおいて、ITに精通している方がいないと難しい部分があります。

パートナーや業者、懇意にしている詳しい方等の有識者に相談しながら進めることを推奨します。

ブレインワークス主催 10,11 月度セミナー開催情報

PMS研究会

Pマークを取得された会社の担当者の方が悩む運用の課題や、更新審査に向けた準備について話し合う研究会です。Pマークを取得したけれど宝の持ち腐れになっていると感じている担当者様、一度ゆっくりと話し合う機会を持ちませんか？

■日 時：平成23年10月21日(金) 14:30～16:30

■参加費：10,000 円

■対 象：担当者、教育責任者などPマークに関わる方

■セミナー概要：

- ・ 2時間まるごと更新審査
- ・ 初回審査と更新審査の違い
- ・ 最新の指摘トレンド

■講 師：株式会社ブレインワークス取締役 大西信次

C I O研究会

ブレインワークスグループは創業以来、中小企業における情報活用をサービス提供するだけでなく、自社の実践を重ね、追求してきました。その中で中小企業における情報活用のキーとなるC I Oの役割と実践事項について、膨大なノウハウを蓄積しています。このたび、弊社でC I O研究会をスタートし、中小企業におけるC I Oの果たす役割を整理し、今後の実践に役立つ生のノウハウを、中小企業の経営者および経営幹部の方々にお届けいたします。

■日 時：平成23年10月26日(水) 14:30～16:30

■参加費：15,000円

■対 象：中小企業の経営者、または経営幹部の皆様

■セミナー概要：

- ・ 中小企業に必要なC I Oとは？
- ・ 中小企業はITの前に人と組織をよく見るべし

■講 師：株式会社ブレインワークス
コンサルタント 玉置哲也

I S O取得セミナー

情報セキュリティコンサルティング実績 500 社以上の経験をもとに、現場で生きる、運用のための、認証取得ノウハウをご紹介します。認証取得を迷われているセキュリティ担当者様、ぜひ一度お話を聞きにきてください。

■日 時：平成23年10月28日(金) 13:00～15:00

■参加費：無料

■対 象：I S O取得を考えている企業様、担当者様

■セミナー概要：

- ・ I S O 2 7 0 0 1 取得のための文書作成
- ・ マネジメントシステムをまわす社内体制構築法

■講 師：株式会社ブレインワークス
コンサルタント 藤原一博

C A P Dの実践

P D C Aを行うのは、仕事スキルの上では、重要です。本セミナーでは、単にP D C Aを実践するだけではなく、マネジメントの肝であるP D C Aの「C」を強化する研修を実施します。

■日 時：平成23年11月2日(水) 10:00～17:00

■参加費：10,000 円

■対 象：経営幹部、マネージャークラスの皆様

■セミナー概要：

- ・ チェックすることの重要性
- ・ 「C」力を鍛える
- ・ P D C Aの本質

■講 師：株式会社ブレインワークス
コンサルタント 藤原一博

※セミナー開催場所は、ブレインワークス東京本社内アジアビジネスセンター、ブレインワークス神戸本店内アジアビジネスセンターとなります。東京、神戸をテレビ会議にて接続します。

TAZUNA 通信 10月号

発 行：株式会社ブレインワークス

編集人：渡辺 慎平

発行日：平成23年10月13日

お問い合わせ先：

〒141-0031

東京都品川区西五反田6-2-7

ウエストサイド五反田ビル3F

● TAZUNA 通信とは ●

TAZUNA とは騎手が馬を制御するために

用いる手綱のことです。

企業経営における手綱さばきに欠かせない

旬な情報をお届けします。

株式会社ブレインワークス

B BRAIN WORKS co.,ltd.
株式会社ブレインワークス

<http://www.bwg.co.jp/>

お問合せe-mail : public@bwg.co.jp

